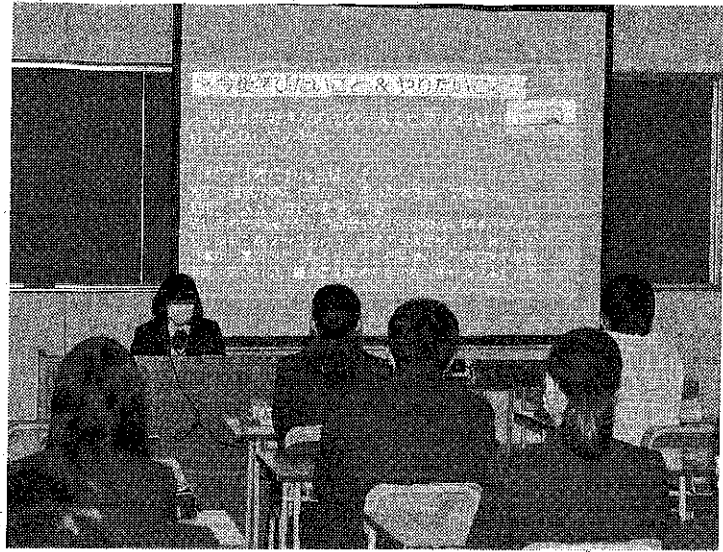


オンラインで自身の学んだことを
発表した蜂屋さん



国語学習の成果発表

十勝の高校とオンライン交流

白糠高

【白糠】白糠高校（田村 信明校長）は17日、帯広北（帯広市）、清水（十勝管内清水町）の両高校とオンライン交流授業を初めて行った。各校の代表者が「国語の授業で学んだこと」について発表した。

白糠高の井口裕太教諭と帯広北高の戸川貴之教諭、

清水高の松下和子教諭が昨年12月、道教育大釧路校の佐野比呂江教授が月例で開いている「国語を学ぶ会」に参加した際に着想を得て実施の運びとなった。オンライン会議ツール「Zoom（ズーム）」で各校をつなぎ、各代表者がスライドで発表した。

白糠からは1年生21人が参加し、大澤結さんと蜂屋歌琳さんが発表者となった。大澤さんは江國香織さんの小説「デューク」を紹介し、「どこか懐かしく、不思議な気持ちで読んでいた。（登場人物の）女性の前に現れた青年が、亡くなった愛犬のデュークなのかは分からないが、あえて正体を明かさずに終わるのも表現の一つだと思った」と感想を述べた。

蜂屋さんは川端康成著の「雨傘」を読んだ後に人物や時、場所などの情報整理のほか、登場人物の心情読解、場面のイラスト化などを学んだとし、今後は「私は本が好きなので、参加者

が本を持ち寄って紹介し、一番読みたくなった本を争うビブリオバトルをクラスでやりたい」とまとめた。

終了後、大澤さんは「相手に聞き取りやすいようにゆっくり話すことを心掛けた。きちんと伝わっているか不安があった」。蜂屋さんは「オンライン交流授業はコロナ禍だからこそできること。緊張したが、他の生徒の発表がとても参考になった」と話していた。

（水谷友路）